第76回 税理士試験

〔 簿 記 論 〕

熊本県試験会場用解答

11月1日（日）実施

資格の学校 TAC

＜ＴＡＣ＞税26　この解答の著作権はＴＡＣ(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

第76回税理士試験（再試験）【熊本県】簿記論

Ｚ―76再―Ａ〔第一問〕解答

①	1	40	②	1	227
③	1	213, 900	④	1	156, 000
⑤	1	280	⑥	1	こ
⑦	1	そ	⑧	1	い
⑨	1	く	⑩	1	つ
⑪	1	3, 160	⑫	1	あ
⑬	1	仕訳なし	⑭	1	て
⑮	1	12, 400	⑯	1	せ
⑰	1	113, 800	⑱	1	22, 500
⑲	1	7, 840	⑳	1	76, 800
㉑	1	146, 800	㉒	1	22, 500
㉓	1	17, 160	㉔	1	144, 400
㉕	1	104, 420			

Ｚ―76再―Ａ〔第二問〕解答

問１（金額の単位は円とする）

(1)		2	2,400,000		
(2)		2	14,600		
(3)	①	あ		②	せ
	③	92,000			
(4)	①	こ		②	120,000
	③	き		④	1,200,000
	⑤	く		⑥	90,000
(5)		2	23,673,000		
(6)		2	12,000		

(3)：すべて正解して2点

(4)：すべて正解して2点

≪順不同：(4)③④と⑤⑥≫

問２（金額の単位は円とする）

(1)	①	※1	あ	②	※2　い
	③	2	520,000		
(2)	④	※1	290,000	⑤	※2　1,867,780
	⑥	2	2,123,600	⑦	2　900,780

※1　(1)①と(2)④はセットで2点

※2　(1)②と(2)⑤はセットで2点

≪順不同：①④と②⑤≫

問３（金額の単位は円とする）

(1)	2	6,267
(2)	1	798,033

　この解答の著作権はＴＡＣ(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

Ｚ―76再―Ａ〔第三問〕解答

（単位：円）

①	Ｄ商品仕入	1	170,700,000
②	貸倒引当金繰入額	1	3,840,400
③	退職給付費用	2	13,050,000
④	減価償却費－建物	2	3,600,000
⑤	減価償却費 －車両運搬具	1	680,000
⑥	減価償却費－備品	1	1,050,000
⑦	社債利息	1	2,000,000
⑧	社債発行費償却	1	956,800
⑨	為替差損益	1	200,000
⑩	支払手数料	2	30,000
⑪	固定資産売却損	1	1,100,000
⑫	投資有価証券 売却損	1	3,800,000
⑬	Ａ商品売上	1	773,400,000
⑭	Ｂ商品	1	65,760,000
⑮	Ｃ商品販売益	1	44,080,000
⑯	受取利息	2	9,528,000
⑰	その他有価証券 評価差額金	1	6,300,000
⑱	その他資本剰余金	1	14,010,000
⑲	閉鎖残高	1	456,972,040
⑳	開始残高	1	395,000,000

㉑	電子記録債権	1	51,400,000
㉒	契約資産	1	1,408,000
㉓	Ｂ商品	1	12,000,000
㉔	Ｃ商品	1	62,310,000
㉕	Ｄ繰越商品	1	38,500,000
㉖	貯蔵品	2	70,000
㉗	返品資産	1	30,000,000
㉘	建物	1	126,900,000
㉙	車両運搬具	1	19,720,000
㉚	一括償却資産	1	4,400,000
㉛	投資有価証券	2	38,400,000
㉜	支払不能 電子記録債権	2	3,000,000
㉝	自己株式	2	10,000,000
㉞	返金負債	1	50,500,000
㉟	契約負債	1	4,400,000
㊱	未払消費税等	1	20,117,090
㊲	退職給付引当金	2	173,050,000
㊳	繰延税金負債	1	9,720,000
㊴	貸倒引当金	1	23,365,400
㊵	その他有価証券 評価差額金	2	1,680,000

●合否のポイント

今回の第76回再本試験は、すぐに埋められる箇所、解答に時間を要する箇所の強弱がハッキリしている印象を受けた。よって、すぐに埋められる箇所に対していかに精度高く、より多く記入していけたかが合否のポイントになると思われる。というのも、第一問と第三問のボリュームが多く、時間の配分については非常に難しかったと思われるからである。

●合格ライン

〔第一問〕

本問は、仕訳、転記、試算表を中心とした問題となっている。ただ、すべてを解答していくことは時間的に厳しいものがあるため、すぐに埋められる箇所の精度が重要となってくる。なお、すぐに埋められる箇所は①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑬⑭⑯⑲⑳が挙げられるであろう。これらを考慮し、合格ラインは16箇所程度正解し、16点程度になると予想される。

〔第二問〕

本問は、問１は簿記一巡を意識させた有価証券及び自己株式を中心とした問題、問２は組織再編、問３はポイント制度が出題された。第一問や第三問とは異なり、ボリュームが少ないため、満遍なく解答し、しっかりと正解を積み上げていきたい箇所となっている。これらを考慮し、合格ラインは配点箇所として８箇所程度正解し、16点程度になると予想される。

〔第三問〕

本問は、決算整理型の総合問題である。資料前半に商品が４つ登場すること、為替予約、収益認識が絡むことから、資料後半から解答していくと、良いリズムが作られていくと思われる。また、第一問同様にボリュームが多く、すべてを解答していくことは時間的に厳しいものがあるため、すぐに埋められる箇所の精度が重要となってくる。なお、すぐに埋められる箇所は③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫⑯⑰⑱⑳㉖㉘㉙㉛㉜㉝㊲㊵が挙げられるであろう。ただし、社債利息⑦、固定資産売却損⑪、開始残高⑳はすぐに埋められたとしても正解しているかどうかは不安が残る箇所である。これらを考慮し、資料後半部分が重要であると考え、合格ラインは20箇所程度正解し、28点程度になると思われる。

予想配点による採点では、ボーダーラインは60点程度と思われる。

●税理士試験後の受験プランニング

⑴　合格発表前

TAC 配点での得点	次年度のコース等選択案
60 点以上	次の科目の「**速修コース（※２）**」に進みましょう。 なお、すでに次の科目の学習を始めている方は、その科目の学習を継続してください。
60 点未満	現在の実力(成果・基盤)をしっかりと維持し、強固な土台を固めておくことをお勧めします。 ⇒「Re-Start ゼミ（オプション講座）」（又は自主学習）

※１　合格発表があるまでは合否は分かりません。上記を進路の決定にあたって参考になさって下さい。

※２　比較的時間に余裕がある方は、年内から開講しているコースを追いかけて履修することもご検討ください。

⑵　合格発表後

結　果	次年度のコース等選択案
合　格	次の科目の「**速修コース**」に進みましょう。
不合格	残念ながら再チャレンジとなった場合、コース選択の判断の際は、本試験の評点等を目安にしてください。 ① 本試験の評点が 59 点～46 点の場合 ⇒「**上級コース**」で実践力を養成してください。（＋α Re-Start ゼミ（オプション講座）） ② 本試験の評点が 0 点～45 点の場合 ⇒「**速修コース**」で基本項目の再確認を行いましょう。

　この解答の著作権はＴＡＣ(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

各コースの詳細はこちらからご確認ください。

上級コース

速修コース

Re-Start ゼミ